

オリエンタル系ユリの球根肥大状況について(12月8日現在)

平成29年12月11日
 経営普及課
 (農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センター、中山間地農業技術センター、高冷地農業技術センターにおけるオリエンタル系ユリ球根定期観測結果から、今年の球根肥大及びノーズ形成状況についてご紹介します。

1 供試球根

- (1) 調査品種 カサブランカ (オランダ産TYS球根)
 (2) 球根サイズ及び前年・平年値との比較 (平年値は2007～2016年の平均)

年度	球根 サイズ	球根重 (g)	球周 (cm)	りん片 (枚数)	葉数 (枚)
2017	14/16	45.4	15.3	25.8	37.5
2016	14/16	47.3	16.2	25.7	35.8
平年値	14/16	48.0	15.5	25.6	39.3

※各センターとも同一ロットの球根を供試し、園芸研究センターで調査した。

2 耕種概要

観測場所 (所在地)	園芸研究センター (聖籠町)	中山間地農業技術セ ンター(長岡市川口)	高冷地農業技術セ ンター(津南町)	
栽植距離	20×20cm、4条植	20×20cm、4条植	20×20cm、5条植	
定植日(前年度)	4月3日(4/1)	5月2日(4/19)	5月2日(4/27)	
施肥 N-P ₂ O ₅ -K ₂ O (kg/10a)	基肥	15-15-15(3/30)	10-10-10(4/10)	19-15-19(4/28)
	追肥 (実施日)	5- 5- 4(6/2)	5- 5- 4(6/15) 7- 7- 8(7/24)	3-4.2-3.6(6/26) 3-4.2-3.6(7/18)

3 生育・葉分化等の状況

- (1) 各センターとも5～6月の少雨により生育が一時停滞し、莖長は前年を下回った。
 (2) 開花盛期は、前年に比べて定植が遅かったことや6月の低温の影響を受け、各センターとも前年より10日前後遅かった。
 (3) 各センターとも気温の低下とともに莖葉の黄化が進み、園芸研究センターでは11月1日(前年比+5日)に、中山間地農業技術センターでは11月6日(前年比+5日)に、高冷地農業技術センターでは11月13日(前年比+13日)に球根を掘り取った。
 (4) 球根肥大は、各センターとも肥大の良かった前年と比べて劣っており、平年比では、園芸研究センターはやや不良、中山間地農業技術センターは不良、高冷地農業技術センターはやや良と見られる。
 (5) 各センターともノーズの伸長に鈍化が見られる。葉分化数は、園芸研究センター及び高冷地農業技術センターではほぼ平年並、中山間地農業技術センターではほぼ前年並で、増加に鈍化が見られる。
 (6) 耐凍性の指標となる莖軸のBrix値の上昇は、園芸研究センターでは平年よりも早く、中山間地農業技術センター及び高冷地農業技術センターでは平年並に推移している。

4 具体的データ

添付ファイル「L20171208data」及び図1～図6を参照。

※ 次回の生育情報は、12月22日調査のユリの球根肥大及びノーズ形成状況(第8報)をお知らせする予定です。

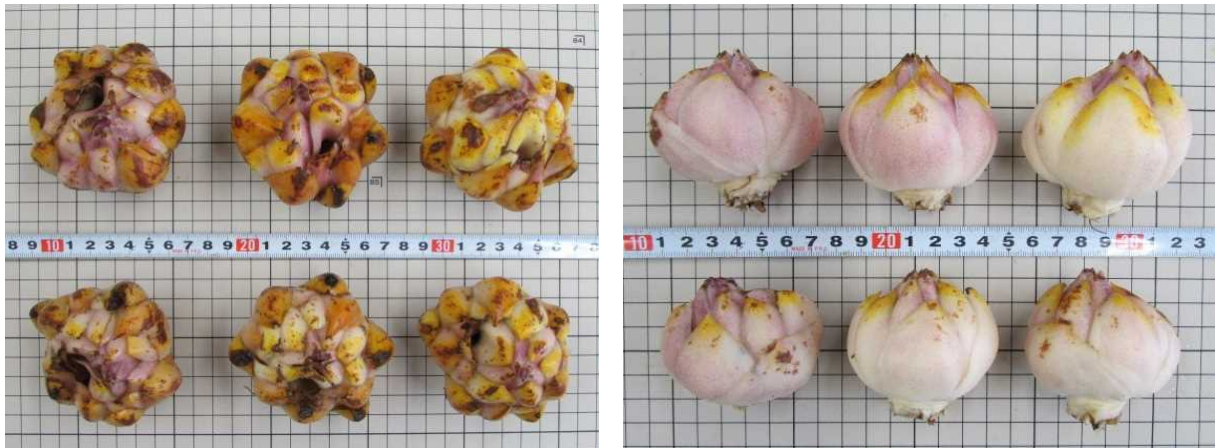


図1 園芸研究センターにおける球根の肥大状況 (左：球根全体、右：新球)



図2 園芸研究センターにおけるノーズの発達状況



図3 中山間地農業技術センターにおける球根の肥大状況 (左：球根全体、右：新球)



図4 中山間地農業技術センターにおけるノーズの発達状況



図5 高冷地農業技術センターにおける球根の肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図6 高冷地農業技術センターにおけるノーズの発達状況